

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2015年4月★第112号

山形県最上地域はエネルギーの宝庫！ 地元資源を活かした木質バイオマスエネルギーの活用を学ぶ

エネルギー問題への関心が高まっている今、木材を材料とした「木質バイオマスエネルギー」が注目されています。地域の8割が森林という山形県最上地域では、豊富な資源を活用し、木質バイオマスエネルギーの先進的な取り組みが行われています。

3月14、15日、最上地域の一つである最上町を会場に、地球温暖化対策を考えるシンポジウムと木質バイオマス施設等の見学ツアーを開催しました。（7ページに記事）



晴天の最上町



2014年に着工し、完成したばかりのペレット工場。
真新しい設備や加工現場に、興味津々の参加者でした！



できあがった木質ペレット燃料

MELONとは 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体が作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - 年5回の情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1 山形県最上地域はエネルギーの宝庫！
- P2 東北の冬は薪・ペレットストーブで体の芯からあったまる
／「東北地区ESD環境教育プログラム」を作成
- P3 仙臺農塾Vol.3
／復興住宅向けエネルギー設備と施設仕様の展示会を開催
- P4 MELONcafe プチ講座
／かんきょう読み聞かせ「ちきゅうのためにできる10のこと」
- P5 協同組合からのお知らせ
／目指せ100人！環境リレートーク 高田篤さん
- P6～7 ストップ温暖化センターみやぎ通信
／「GO!GO!89ERS!! ECOスクール」を開催
- P8 新スタッフ紹介／イベント一覧／編集後記

東北の冬は薪・ペレットストーブで体の芯からあったまる

薪＆ペレットストーブ体験会

①「建築士に聞く 薪＆ペレットストーブライフ」

日時：2月22日（日）13：30～15：30

会場：ゼロ村カフェ 参加者：35名

②「子どもと楽しむ薪ストーブライフ」

日時：2月28日（土）10：30～13：00

会場：向山こども園 参加者：17名

「冬場の乗馬クラブで体が冷え切ったとき、クラブにあった薪ストーブにあたると体の芯から温まることを実感していたので、家を建てる時には薪ストーブにしたかったんです。」と語ってくれたのは、薪ストーブユーザーの斎藤さんでした。まだ薪ストーブ歴は短いものの、仕事から帰ってきたら火を入れ、火が弱くなればお子さんが勧めて薪を入れてくれるのだそう。寝るときに



県内最大級の薪・ペレットストーブの展示を誇るゼロ村カフェ（フリートーク中）

は薪ストーブの方からパチリと音がすると心が落ち着くとのことでした。実際にストーブを使っている方の話を聞き、ストーブの特徴を専門家から学び、薪の調達ができる活動団体を知る。ストーブの

導入を考えている方にとって収穫のある講座となったようです。

薪ストーブは、子どもたちにとっても貴重な体験になります。子どものいる場所では心配かもしれませんが、



すべての教室に薪ストーブが設置されている向山こども園

最初にきちんと話し、温かいものに近づけば熱いということは子どもたちも本能的に分かるものです。教室に薪ストーブを導入している向山こども園でも特に危険だったことはないそうです。周辺の木々が、切られて薪となり、自分たちをあっためてくれていること、その循環を感じる事が大切とのことでした。

地元の木材を使うことで、森は活性化し里山保全と地域経済の活性化につながります。うちでは無理、と思わずに興味があれば、一度専門家のお話を聞いてみてはいかがでしょうか。

①の回共催：株式会社 建築工房 零

協力：向山こども園、NPO法人川崎町の資源をいかす会、
台ヶ森北森林整備クラブ、
NPO法人フォレストサイクル元樹、宮城県森林組合連合会

「東北地区ESD※環境教育プログラム」を作成

環境省からの受託事業として、東北6県で策定委員会を組織し、地域に根差した活動をしている団体のご協力でESD環境教育プログラムを作成しました。

2月15日（日）には日立システムズホール仙台2F交流ホールにおいて「東北地区ESD環境教育プログラム成果発表会 ESDってなあに？知ろう！学ぼう！行動しよう！」を開催し、東北6県のプログラムを発表。青森県金木町では地域の資源である青森ヒバの生態や生活とのつながりを学ぶプログラム、山形県鮭川村では全国的にも貴重なサクラマスについて学び食して地域の恵まれた環境と価値を再認識するプログラムなど、どれも興味深い発表でした。

発表後には6県の代表者に登壇していただき、東北工業大学の近藤祐一郎先生をファシリテーターにパネルディスカッションを行いました。持続するためには体験しながら楽しく活動することが大事であることや専門家

に学校現場に来てもらうための仕組み作りが大事であることなどのコメントが出され、今後のESDのあり方を考える良いイベントとなりました。

このプログラム集をご希望の方はMELON事務局までお問い合わせください。（但し部数に限りがあります。MELONのWEBサイト「出版・販売物」のページからPDFをダウンロードできます。）



東北地区ESD環境教育プログラム集

※ESD（Education for Sustainable Development「持続可能な開発のための教育」）：日本が2002年の国連地球サミットで提唱したもので、地球的な視野を持つ市民を育成することを目的とする教育のこと。

仙臺農塾

大人の食育プロジェクト

第5回「宮城の海の今を知る！～三陸の漁業・養殖業 復興中～」

日 時：1月28日（水）19：00～21：00

ゲスト：酒井敬一さん

（宮城県水産技術総合センター、気仙沼水産試験場 場長）

会 場：飲み喰い処 倅（青葉区本町一丁目12-6）

参 加：31名

■「食楽」いかに食を楽しむか

当日朝、船に乗って自ら刈り取ったワカメ10kgを持ってきてくださった酒井さん。軽快な口調に一同引き込まれ楽しくお話を伺いました。

震災前、宮城はホヤ・ギンザケ・サメ類が全国一位の漁獲量で、800億円もの漁業生産を誇っていました。しかし震災で漁獲量は激減。それでもがれきの撤去や養殖種苗の確保などに取り組み、ワカメ・コンブ・ギンザケは次の年には6～7割ほどに復活。ホヤも3年で5～6割までに戻り、漁船数は9割以上、魚市場の水揚げは8割と復興に向かっていきます。水産物放射能検査でも、100Bq/kg 越えが一時6.5%でしたが、現在は0.1%とごくわずかで超えたものは出荷はされていません。

漁業の最前線にいる酒井さんは、料理の知見も深く料理を通した普及もしています。提唱しているのは「食楽」。新しい料理を作り出したり、食の背景を含めて総合的に知的に食を楽しみましょう、という考えです。旬を楽しみつつ、データに基づいたお話しで知的な学びの場となりました。



朝どりワカメのしゃぶしゃぶはびっくりするほど美味でした

第6回「酪農ママの挑戦～西洋野菜を古川から～」

日 時：2月25日（水）・3月4日（水）19：00～21：00

ゲスト：佐々木由紀子さん（農業者）

会 場：Trattoria Companio（青葉区中央3-5-30）

参 加：両日とも23名

■牛乳の安全と西洋野菜の料理法を拡げていきたい

佐々木さんは農業短大卒業後、1年間スイスの農業研修を経験し、帰国後仙台で西洋野菜作りを開始。当時西洋野菜はとても珍しく、一度は興味で購入してくれるものの継続しての取引は断られるなど難しい状況でした。そんな時に「ぜひ野菜を使いたい」と連絡をくれたのが現在 Trattoria Companio の会社に勤める及川シェフでした。「苦しい時ほど出会ってあるものなんですよ」と笑顔で語る佐々木さん。西洋野菜という珍しさと、栽培から営業、配達までをやりくりする農業女子の姿は共感を呼び、多くのメディアにも登場されたそうです。現在は酪農家に嫁ぎ、ママ業と酪農の手伝いをする傍ら、古川の地で再び西洋野菜作りに挑戦しています。

「牛乳の安全と西洋野菜の料理法を拡げていきたい」と意気込む佐々木さんと、それをしっかりと支える優しい旦那様。「由紀子さんの一生懸命さに心を打たれました」との感想もあり、みなさんすっかり

佐々木さんご夫妻のファンになっていました。



（左）出合いを語る及川シェフ（右）当日料理を担当された佐藤シェフ&佐々木ご夫妻

復興住宅向けエネルギー設備と施設仕様の展示会を開催

日 時：3月8日（日）10：00～18：00

会 場：東北大学片平キャンパスさくらホール1階

来場者：のべ150名 出展ブース：15ブース



手回し発電機などブース展示で来場者にエネルギーについて考えてもらいました。

さくらホール2階で開催された「Theメタン～古くて新しいエネルギー～」の付属イベントとして、これからのエネルギー資源や省エネに関心を持っている一般市民向けに、展示会を開催しました。各地域での再生可能エ

ネルギーの取り組み事例や、県産材を使用した地球環境に優しい住宅について15ブース設けました。参加者は、鳴子温泉で取り組んでいる家庭の生ごみを利用したバイオマス発電や、(株)サカモトが展示したペレットストーブに興味をひかれていたようです。MELONのブースでもMELON版復興住宅の小冊子や、水車の取り組みの紹介を行いました。住宅建設や地域のエネルギーについて良い情報交換の場となりました。今後も最新のエネルギー設備や省エネの情報を発信できる見学会などのイベントを行っていききたいと思います。

【出展協力】※順不同 仙台市ガス局、東北電力（株）、山形県最上町、NPO法人スパッと鳴子温泉自然エネルギー、東北復興次世代エネルギー研究プロジェクト、(株)伸電、サステナジー（株）、NPO法人川崎町の資源をいかす会、宮城県森林組合連合会、(株)山大、(株)建築工房零、エネシフみやぎ、(株)サカモト、(一社)ワタマスマイル



MELONcafe

2月21日(土) 13:30～15:30

「着物をリメイク♪貝のおひな様作り」

2月28日(土) 13:30～14:30

「米粉で簡単♪桜もち&イチゴ大福作り」

昨年も大好評だった「貝のおひな様作り」を、今回も不要になった着物を利用して開催しました。今年初めて雄雛を作成することにし、参加者は見本を参考に雌雛か雄雛かを選ぶことができました。参加者からは「想像以上に立派なおひな



ホッキ貝でおひな様を作りました！

さまで参加してよかった」との声が聞かれました。最後に桜茶を飲んで一足早く春の気分を味わいました。

2月28日は、ひなまつりに向けて米粉を使った桜もちとイチゴ大福作りです。国産の米粉

を使ってお菓子を作ると食料自給率が上がり、なお地元産のお米の場合地産地消にもなり、輸送するエネルギーを抑えられるため地球温暖化防止にもつながります。この日も募集以上の申し込みがあり、参加者からは「後日家で何回も作りました！」とのお礼のお電話もいただきました。



いちご大福と桜もちづくりを行いました。

4、5月もリメイクの講座を行います。ちょっとひと手間をかけることでごみを減量することができます。一緒に作ってみませんか？

今後のMELONcafe プチ講座

4月11日(土) 13:30～15:30

「空ビンのリメイク♪ガラスエッチング作り」

5月9日(土) 13:30～14:30

「古着をリメイク♪羊の香り袋作り」



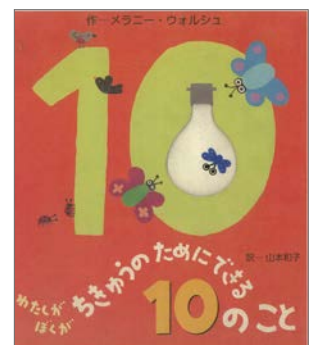
ちきゅうのためにできる 10 のこと — 家族が支える —

メールやSNSなど、私たちが便利に使っているものが、知らず知らずのうちに子どもたちにも影響を与えていることがあります。子どもたちに私たちの演ずるお芝居を見せながら、自分たちはわき目も振らず、仲間と2人でメールに「LINEです!」というかもしれません。夢中になっている親御さんも実際に見かけました。子どもを抱っこして、お乳をやりながらもスマホに向かってい

るお母さんの話も聞きました。日本は欧米諸国と比較して、親が子どもと一緒に過ごす時間が極端に短く、お父さんたちだけを見ればさらに悲劇的です。だから、「残業代ゼロ」などという身の毛もよだつような法律を作ろうとしている人たち、父親が早く家に帰って、子どもたちに本を読んであげる時間の大切さを知らない偉い人たちがいることが心配なのです。

訳「ちきゅうのためにできる10のこと」(チャイルド本社、2009年1月)を読みましょう。簡単な文が仕掛け絵本の中につづられています。子どもたちと仕かけを楽しみながら読むととても面白い本ですよ。この本で奨めているように、環境活動はひとりひとりの働きなのですが、子どもたちが、それぞれの考えを持ち、自立して行動するには、小さいうちに、自分の行動を見てくれる、自分を支えてくれる家族が必要なのだと私は思います。

大人の私たちは、家族や家族のような人たちが子どもを育てているというのですが、同じところにおいても、子どもとどれだけ一緒に「つながって」いるのでしょうか？ 子どもたちを支えているのでしょうか。では、もし、お父さんやお母さんをはじめとする家族を単位とした「つながり」が何らかのかたちで壊れているとしたら、子どもたちはどこへ信頼を寄せるのでしょうか。どこだったら安心していただけるのでしょうか。仲間はすれにされないように、宙ぶらりんのかたちでつながりを求めていくこともあるかもしれません。自分自身に閉じこもってしまうかもしれません。そのときに、メールやSNSは相手がわからなくても、近寄りやすい手段なのです。子どもとしっかりつながるためにこそ、本を読み聞かせてみてはどうでしょうか。



各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

～みやぎ生活協同組合～

「こ～ぷの森吉成山」植林体験会 ～新しい森をみんなで作り育てよう～

みやぎ生協は皆様のご協力を得ながら森づくりの活動を進めています。仙台市青葉区吉成に誕生する新しい「こ～ぷの森」に苗木を植える参加者を募集します。多種類の広葉樹やカラマツなどの苗を植えて、みんなの森を作り、育てます。親子での参加大歓迎！！

日 程：4月19日（日）

バス乗車：9：00 仙台駅東口貸切バス発着所集合 参加費 500円

現地集合：9：30 南吉成中学校駐車場 参加費 無料

持 ち 物：飲み物、軍手、帽子、雨具、長靴、

持参できる方は穴を掘る道具（トグワなど）

終了時間：12：00予定 ※1人5～10本くらい植えます。

申込方法：名前、住所、電話番号を明記し、下記までハガキ、メール、

FAXでお申し込み下さい。こちらからもwww.miyagi.coop/member/event/detail/823/



申し込み・問合せ先 みやぎ生協生活文化部

〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2

TEL：022-218-3880 FAX：022-218-3663 eメール：sn.mkankyok@todock.jp



目指せ100人！ 環境リレートーク



第55人目の執筆者

高田 篤さん

（特定非営利活動法人
まなびのたねネットワーク
副代表理事）

ESD ≠ 環境教育で
次の10年の展開を

まなびのたねネットワークは「一人ひとりが自分らしく未来を切り拓く」をコンセプトに、学校教育と社会教育の支援を通して、子どもも大人も主体的に学び育つことができる環境づくりを行っている団体です。

この2年間にわたって、MELONが主宰する東北地域のESD（持続可能な開発のための教育）のモデル事業に参画させていただきました。2013年度は塩釜市の離島で行われているカキ養殖を、2014年度は川崎町内の森林の利活用をそれぞれテーマにした活動を行いました。



川崎町で炭焼きを見学

学校（社会）教育支援とESD、
一見、互いに縁遠いものに見え

ます。しかし、これからの東北地方では、地域の持続可能性は環境問題を視野に入れているだけでは担保されません。地域の生業の継続であったり、コミュニティの担い手の確保であったりと多面的な視点での持続可能性の担保が重要になってきます。

そのためには、環境問題に関心のある方だけではなく、地域活性化やコミュニティづくり、人材育成・キャリア教育など多様な興味・関心を持った主体が協働して取り組んでいく必要があるでしょう。MELONにもこのようなつなぎ役としての役割を引き続き期待しています。

<連絡先>

特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク

メール info@manabinotane.net



地域のNPOの方から
お話を伺う

… 次号執筆者紹介 …

多賀城市市民活動サポートセンター

阿部 明日香さん



ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.68

多様な視点から気候変動を考える ～みやぎ気候変動シンポジウム開催報告～

日 時：2月1日（日）13：00～16：00
会 場：TKPガーデンシティ仙台勾当台
参加者：75名
講 師：江守正多さん（国立環境研究所地球環境研究センター気候変動リスク評価研究室長）
パネリスト：
馬奈木俊介さん（東北大学大学院環境科学研究科 准教授、IPCC第5次評価報告書第3作業部会代表執筆者）
青山ななこさん、服部拓也さん（Climate Youth Japan 略称：CYJ）
池田友紀子さん（仙台管区気象台 地球温暖化情報官）
司 会：渡辺祥子さん



パネルディスカッション

of Youth（略称COY：世界から気候変動に取り組む若者が集いワークショップや情報交換などを行う場）などが紹介され、メディアではあまり報道されな

い若者の視点によるCOPの報告に、新たな発見を得た参加者も多数いた様子でした。また、池田さんからは、21世紀末の東北の年平均気温は約3℃上昇し「仙台が埼玉並みに」といった予測の話がされ、会場からは驚きの声がありました。

当日は定員を超える参加者が訪れ、学生から社会人まで幅広い世代の参加者と熱心な質疑応答が交わされ、熱気のこもった会場に。「多様な視点や世代からの事例が紹介され、自分の視野を広げることが出来ました」「今後、地域や個人でできる対策を考えるヒントを得ることが出来ました」などの感想があり、一人ひとりが何をすべきか考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。

昨年、7年ぶりに公表されたIPCC第5次評価報告書や、12月に開催されたCOP20（ペルー会議）をうけ、気候変動問題に関する最新情報を伝えるシンポジウムを開催しました。CYJのCOP派遣事業を通してCOP20開催地ペルーのリマへ派遣された現役学生の青山さん・服部さんからは、COPにあわせて開催されたConference

「低炭素杯2015」が開催されました！

日 時：2月13日（金）12：50～16：35
ファイナリスト39団体によるプレゼン
2月14日（土）14：45～15：50
表彰式
会 場：東京ビッグサイト

全国の温暖化防止に寄与する取り組みを募集し審査する「低炭素杯」は早くも今年で5年目を迎えました。今年度の応募総数は地域大会を含めて1,700団体もあり、書類審査を通過したファイナリスト39団体が東京ビッグサイトでのプレゼンに臨みました。

当日は企画・審査委員会による審査・表彰と、全国からのゲスト審査員の票及び当日の夜から動画共有サイトYouTubeにアップしたプレゼン動画の視聴回数が加味された「オーディエンス賞」を決定しました。宮城県からはコープフードバンク、富谷電力株式会社、株式会社

北洲の3団体がファイナリストとしてプレゼンし、株式会社北洲の「37年間に渡る寒冷地での省エネ木造住宅の普及」の取り組みが「リクシル最優秀家庭エコ活動賞」を受賞！！

全国の多彩な取り組みには大いに感心し、毎年こうしたイベントを続けていくことが、地域の取り組みの活性化に重要であると感じました。



株式会社北洲の表彰記念撮影



表彰式で主催者挨拶する長谷川理事長

地球温暖化対策を考えるシンポジウム＆木質バイオマスツアー in山形県最上町 開催

地球温暖化対策を考えるシンポジウムin山形・最上町
～東北におけるこれからのエネルギーを考える～
日 時：3月14日（土）13：30～16：30
会 場：最上町中央公民館
講 師：長谷川公一さん（東北大学大学院文学研究科教授）
中田俊彦さん（東北大学大学院工学研究科教授）
パネリスト：高橋重美さん（最上町長）
菅欣也さん（もがみグリーンファーム（株））
伊藤正幸さん（NPO法人バイオマスもがみの会）
司 会：杏澤百合子さん
主 催：環境省東北地方環境事務所
参加者：70名

長谷川理事長からは、温暖化問題の現状や家庭レベルの取り組み例として「節電や省エネ機器への買替、温暖化問題について家族や友人と話し合う」などが紹介され、中田さんからは、東北の住宅の特徴を交えながら地域のエネルギーシステムをいかに作っていくかお話いただきました。

パネルディスカッションでは、最上町内で発生するもみ殻を原料とした固形燃料「モミガライト」や、最上地域8市町村による最上バイオマスサミット宣言が採択された事例などが紹介されました。高橋町長は「森林は最上地域全体の財産。みんなで分かち合うという考えで、最上地域の環境政策に取り組みたい」と話します。今後の最上地域の取り組みに期待が高まるとともに、東北全体に波及させていくか考える時間となりました。



パネルディスカッションの様子

もがみ木質バイオマスツアー
日 時：3月14、15日（一泊二日）
見学先：ウェルネスプラザ、ペレットマン最上、
ペレット工場、チップ工場
主 催：MELON
参加者：9名

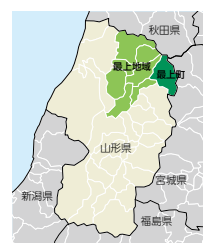
最上町では、町域の84%を占める森林を有効活用し、木の消費と生産を循環させていくことで、地域の活性化を目指しています。これまで適正に管理されていなかった森林の整備を進め、そこから発生する間伐材を新たなエネルギーとして町内の施設に利用する取り組みが行われています。



ペレットマン最上の見学

杉を原料とした間伐材は、チップ工場で直接チップに加工され、ウェルネスプラザ（病院や老人ホーム等、保健・医療・福祉の統合施設）内にある木質チップ焚きボイラーの燃料として、施設の冷暖房・給湯に利用されています。

また、一般家庭での木質バイオマスの活用も積極的に推進されています。薪・ペレットストーブの販売・メンテナンスなどを行っているペレットマン最上では、主に家庭用のペレット・薪ストーブが展示され、いくつかは実際に稼働していました。木の温もりを感じる店内と、じんわりと温まるストーブに、つい長居したくなる空間でした。2014年に着工したペレット工場も完成し、さらなる普及が期待されています。



参加者からは熱心な質問が行われ、町の方々との交流にもなったようでした。

「GO!GO!89ERS!! ECOスクール」を開催

日 程：1回目 12月20日（土）、2回目 2月15日（日）、
3回目 3月7日（土）
会 場：仙台市体育館 会議室
参加者：1回目32名、2回目30名、3回目10名
講 師：1回目株式会社木本生花、2・3回目（公財）みやぎ・環境とくらし・ネットワーク

プロバスケットbjリーグ・仙台89ERSのホームゲームにおいて「GO!GO!89ERS!!ECOスクール」を開催しました。これは仙台89ERSの運営会社と、環境活動に熱心な株式会社ウジエスーパーの子会社・株式会社ウジエクリーンサービスとの共催です。

1回目は環境に配慮して作られた肥料を使用した寄せ植え作りとペットボトルのツリー作り、2回目は89ERSにちなん

だ8.9mの恵方巻き作り、3回目はイチゴの米粉カップケーキ作りをしました。また、ウジエクリーンサービスの環境への取り組みのお話や、村松理事から3Rに関する講義など盛りだくさんの内容となりました。恵方巻きや米粉に使用したお米はウジエスーパーで出た生ごみをコンポストで堆肥にし、その有機肥料を使って栽培したものです。

参加者からは「リサイクルについて勉強になった」との感想も聞かれ、有意義な時間となりました。



環境に配慮して作られた肥料を使って寄せ植え作りをしました。



8.9mの恵方巻きをみんなでつくりました！

今年も開催します！ 「MELONフェスタ」

第20回MELON会員と市民のつどい「MELONフェスタ」を、みやぎ生協文化会館ウィズにて開催します。時間や内容はこれから検討委員会で企画していきますが、今年も会員同士の交流とMELONの活動を体験できる場にしますので、ぜひご参加ください。

日程：2015年9月12日（土）
会場：みやぎ生活協同組合文化会館ウィズ
（仙台市泉区八乙女4-2-2）
内容：お楽しみに！！

こんなことがやりたい！など提案がございましたら、MELON事務局までご連絡ください。

新 スタッフ紹介

■菅原哲平：情報センター、食部会、エコシティ 仙台プロデュースプロジェクト担当



好きな食べ物はツナ缶です。365日ツナ缶でも飽きません。夢は、全国各地のツナ缶を集めてツナ缶パーティーを開くことと、世界のツナ缶を食べ歩くことです！！ それでは、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

■吉田美緒：ストップ温暖化センターみやぎ担当



環境問題について自分の視野を広め、知識を深めながら活動していきたいと思っています。好きな食べ物はスープカレーです。いつか相棒のカメラを持ってスープカレー発祥の北海道に行きたいと思っています。今後とも、よろしくお願いいたします！

編集後記

■5年前、MELON事務局に籍を置いた時に趣味として「生ゴミを堆肥」にすると書きましたが、4R推進部会の活動の柱にさせていただいて活動を進めることができました。4月20日をもって退職となります。長い期間ありがとうございました。（篠原）

■春は出会いと別れの季節。これまで一緒に活動してきたスタッフを見送る寂しさもあり、新しいスタッフが加わる期待もあり…MELONも新たな一年が始まります！（岸）

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

4/11（土）	水部会例会 MELONcafe プチ講座 「空ビンをリメイク♪ガラスエッチング作り」開催
4/14（火）	食部会例会
4/19（日）	仙臺農塾 Vol.3 第8回 大人の遠足・丸森編 「悠久のふるさと筆甫 春の山里暮らしの今～震災・ヘソ大根・味噌・たたら～」
4/25（土）	「新緑祭」にブース出展
5/9（土）	MELONcafe プチ講座 「古着をリメイク♪羊の香り袋作り」開催
5/12（火）	茶話会「食べ物の今はどうなってるの？ ～放射線測定室から見えること・言えること～」開催
5/13（水）	自然エネルギー普及プロジェクト例会
5/21（木）	企業交流部会例会
5/23（土）	第12回生ごみ堆肥化&ベランダ園芸講座 「緑のカーテンを上手につくる」開催
5/26（火）	MELONcafe 例会
5/27（水）	仙臺農塾 Vol.3 第9回 「豚と暮らす～放牧と美味しいお肉の関係～」開催
6/20（土）	MELONcafe プチ講座 「リメイクキャンドル作り」開催
6/24（水）	仙臺農塾 Vol.3 第10回 「脱サラ農家奮闘記～雑草と育つ固定種野菜～」開催

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

〈会員状況〉

793名

法人 81
任意団体 14
個人 698

2015年3月9日現在



ボランティアポイントカード制度 をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをすると、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON協力商品券と交換できます。

MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用になれます。

発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5713

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL http://www.melon.or.jp/melon/



この印刷物は、輸送マイレージ低減によるCO₂削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。

※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。